

インフルエンザの死亡率と罹患数

新型コロナウイルスの致死率は、全年齢で 0.1%～4%程度（平均 2%～3%）であり、80 歳以上では 15%くらいになります。

一方、季節性のインフルエンザの致死率は 0.1%程度、2009 年に流行した新型インフルエンザでも 0.01%程度で、新型コロナウイルスの致死率は高いです。

日本全国での「季節性インフルエンザ」の患者発生の実数は、以下の通りです。

	2019 年	2020 年
8 月 13 日 ～ 9 月 6 日	3,813	3
9 月 7 日 ～ 9 月 13 日	5,738	4
9 月 14 日 ～ 9 月 20 日	5,716	4
9 月 21 日 ～ 9 月 27 日	4,543	7
9 月 28 日 ～ 10 月 4 日	4,889	4
10 月 5 日 ～ 10 月 11 日	4,421	17
10 月 12 日 ～ 10 月 18 日	3,550	20
10 月 19 日 ～ 10 月 25 日	3,953	30
10 月 26 日 ～ 11 月 1 日	4,682	32
11 月 2 日 ～ 11 月 8 日	5,084	24
11 月 9 日 ～ 11 月 15 日	9,107	23
11 月 16 日 ～ 11 月 22 日	15,390	46
11 月 23 日 ～ 11 月 29 日	27,393	46
11 月 30 日 ～ 12 月 6 日	47,200	63
12 月 7 日 ～ 12 月 13 日	77,425	57
12 月 14 日 ～ 12 月 20 日	105,221	70

通常、「季節性インフルエンザ」は 9 月くらいから流行し始めるのですが、上記の全国での昨年と今年の患者発生の実数からすれば、今年の患者発生の激減は、まさに、“手洗い、マスク”の効果ですね。これまで、私たちがいかに、“手洗い、マスク”していなかったということですね。

なお、“手洗い、うがい”と良く言いますが、上を向いてのガラガラという「うがい」は、飛沫とエアロゾルを周囲に撒き散らしますので大変危険です。どうしても「うがい」をしたければ、下を向いてないの「ぶくぶくうがい」が良いです。なお、ウイルスは、吸い込むと 10 秒～20 秒で、鼻や喉の粘膜にくっついてしまいますので、外出から帰って来ての「うがい」は実質的には意味がありません。それよりは、いつも、こまめに水を飲んで、

喉の粘膜にくっついてしまうウイルスを胃に流し込む方が良いのです。強酸性の胃液の中ではコロナウイルスは生きられませんので。

また、「歯磨きクラスター」の発生の報告もなされており、昔に教わった「食後3分、3分間」という歯磨きを横並びで行えば、周囲に飛ぶ飛沫は尋常のものではありません。さらに、最新の歯科学の知見では、食後には、食事の咀嚼によって、わずかにすり減った歯の表面の成分を、唾液の中の成分が補填してくれるので、食直後の歯磨きは、その唾液の中の補填成分を流してしまい、歯の表面の自然の補修力を減弱してしまいますので、返って良くないということです。私は、夜、寝る前に、「GUM」で口をすすぎ、通常の歯ブラシ、前からと中からの歯間ブラシ、糸ようじ、一本歯ブラシ を使って、家内とだべりながら、あるいは、テレビをみながら、1時間かけて、ゆっくりと「歯磨き」をします。これが、私の何よりのリラックスタイムで、このことが「週刊新潮」に、私の写真入りで掲載され、「週刊誌沙汰」になりました。不倫の“週刊誌沙汰”でなくて良かったです！